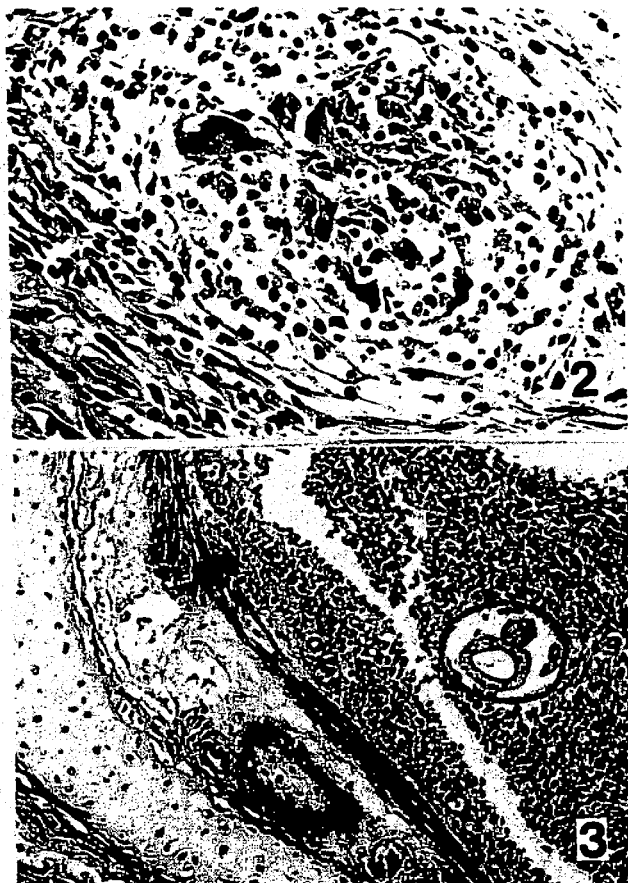
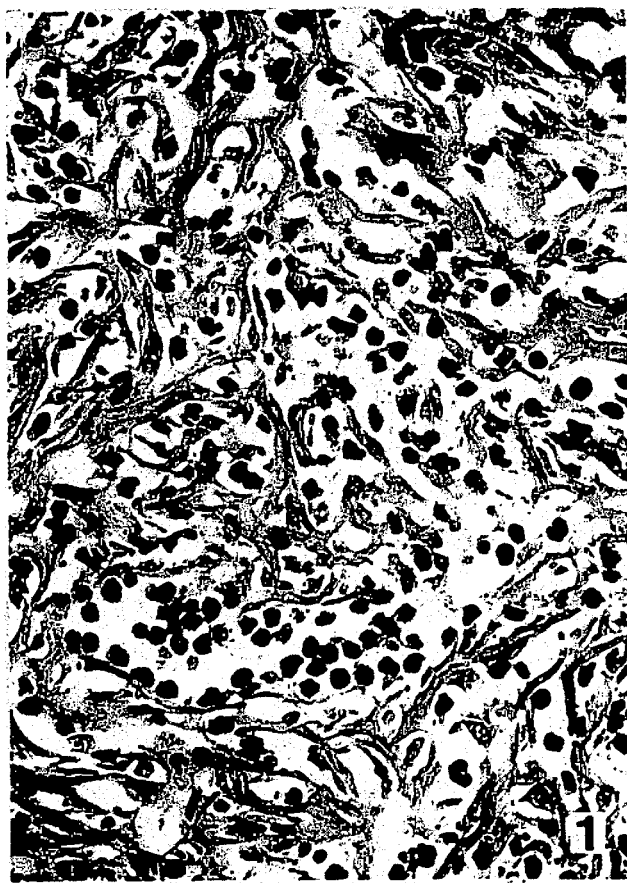


# イノシシの肺

山口大学農学部家畜病理学教室出題 第27回獣医病理学研修会標本No.474



動物：イノシシ (*Sus, scrofa*)，雄，約2才。山口市郊外で捕獲されたもので，解体時，肺に腫瘍が発見され，腫瘍を疑って持参された。肺以外の臓器には，異常は認められなかった。

肉眼所見：肺，右後葉（6×5×5 cm）左前葉後部（9×6×6 cm），左後葉（6×6×6 cm）に，計3個の不整球状灰白色腫瘍を認めた。腫瘍は硬く，弾力があり密実で，断面は乳白色均質，周囲との境界は比較的明瞭であった。腫瘍以外の部位は一様に硬度を増し，細気管支腔内には，白色泥状物が充満，白色ひも状の寄生虫が多数圧出された。付属リンパ節は腫大硬化していた。

組織学的所見：腫瘍組織は，著しいび慢性好酸球浸潤を伴った結合織の増生を主とし，線維芽細胞，膠原線維が多方向性に増生，毛細血管が豊富に認められた（写真1，H E，×400）。崩壊した細気管支や肺動脈を含み，リンパ球や形質細胞の集簇も認められた。腫瘍各所に，好酸性物質や崩壊した炎症細胞を中心とした，マクロファージ，膠原線維およびリンパ球からなる小結節構造が認められ，細胞質内に好酸性球様物を貪食した異物巨細胞も認められた（写真2，H E，×300）。腫瘍は，どの部

位もほぼ同様であった。腫瘍以外の肺組織では，肉眼的に退色硬化した部位に，著しい線維化とそれに伴う肺組織の崩壊がみられ，境界部に強い炎症細胞集簇と，肺胞腔内へのマクロファージ，線維素の滲出があった。細気管支腔内には脱落上皮が充満し，寄生虫虫体断面が認められた（写真3，H E，×200）。周囲の気管支平滑筋は増生し，リンパ濾胞の活性化，結合織の増生が著明に認められ，気管支腔の狭窄および閉塞がみられた。肺葉辺縁部では，肺胞性肺気腫が認められた。付属リンパ節では，固有の構造は消失し，顕著な好酸球浸潤と器質性病巣が認められた。

固定後，細気管支腔内より取り出した虫体は，長さ10 mm～35 mmの白色ひも状の線虫で，形態より，豚肺虫 (*Metastrongylus sp.*) と考えられた。

考察：野外イノシシにおける肺虫の寄生率は高いといわれているが，今回のような腫瘍は認められていない。形成転機は明らかでないが，寄生虫に関連したアレルギーに起因し，活発な炎症性肉芽組織が時間の経過に伴い腫瘍に移行するものと考えられた。

組織学的診断：豚肺虫寄生に関連した，肺の好酸球性肉芽腫症。